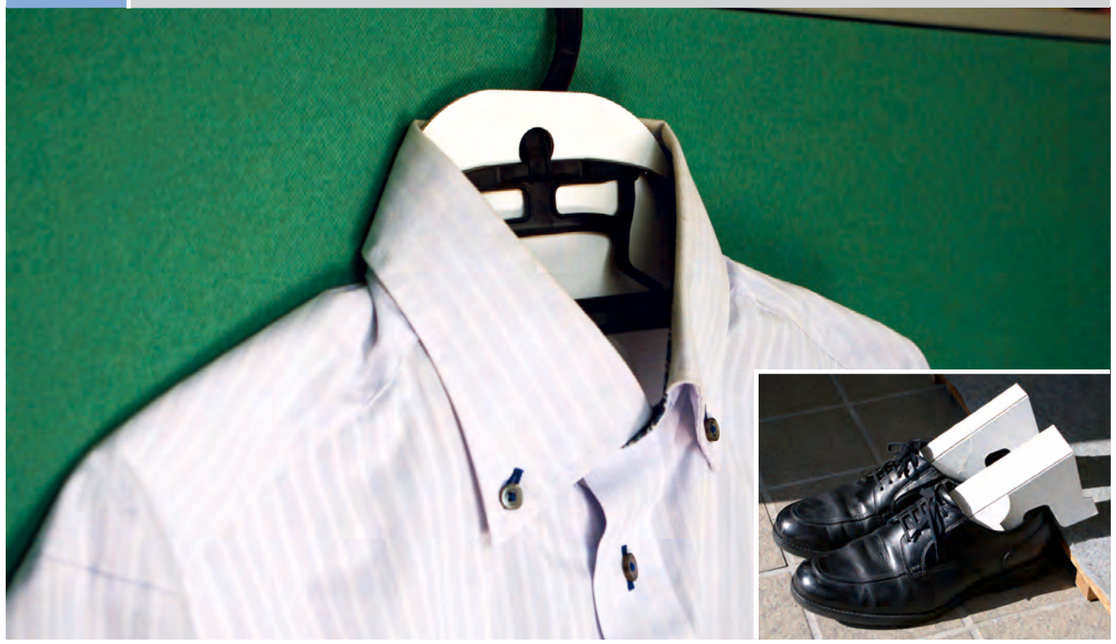
29

株式会社 可門プリントラボ

http://kamonpl.co.jp/



ハンガーにもシューズテーパーにもなる漆喰消臭マルチスタンド

樹脂加工 二次元と三次元の両方可能な強み活かし市場開拓

平成24年度 補助事業と具体的成果

■ 事業テーマ

WEBを活用したものづくり一貫生産受託ビジネスモデル

■ 事業概要

ものづくり企業と市場ニーズのマッチングサイトを立ち上げ、そのマーケティング結果をもとに製品化を判断し、自社が得意とする樹脂製品試作・加工法提案を活用して量産へとつなげる一貫生産受託ビジネスモデル。日本の製造業が技術的に世界で高いレベルを保有しながら、マーケティングや商品化を苦手とする弱点を補い、国内中小製造業と自社の樹脂加工事業の双方の活性化を図るプラン。



サイトのキャプチャ画像を使用

課題	取組	成果
●自社も顧客もマーケティングが不得手	●サイトを立ち上げ ●試作を効率化するため３次元切削機導入 ●同目的でオンデマンド印刷機導入	●マーケティング可能な体制構築 ●試作の迅速化

■ 業務内容

印刷から成型・薄物から厚物で総合力蓄積

昭和56年に自転車用シールラベルで創業。自転車の国内製造の衰退を受け、平成２年に自動車用樹脂部品、同11年に薄型テレビの電磁波バリアシートなどへの参入を果たし、事業転換を柔軟に繰り返すことで成長してきた。樹脂という加工対象素材こそ変わらないが、印刷業から成型、薄物から厚物へと足場を拡大したことと、幅広い業種の顧客と取引することで、一般的な樹脂加工会社にはない樹脂材料の知識が蓄積されている。現在は顧客ニーズに応じた樹脂の総合提案および部材・用品の製造・提供を行い、医療や介護、スポーツ用品といったニッチで付加価値の高い分野も手がけている。

最適な生産見つけ、顧客製品の付加価値を最大化

プレスを使った抜きやエンボスなど二次元加工と、３次元で立体複雑形状の樹脂部品・製品の量産に向く射出成形の両方に精通し、最適な生産工程を組むことができるのが特徴。顧客が従来、金型を作成する必要がある射出成形で加工していた部材を、プレスによる金型レスの樹脂パネル抜き加工に変更する提案を実施し、生産コストを10分の１以下に抑制した事例などもある。市村崇社長は「社名にある『ラボ』は、新しい技術を生み出す存在であるとの自負」とし、顧客製品の付加価値を最大化できる企業をめざしている。



プレス機など工場内の設備

■ 強みとビジョン

材料と成型知識を駆使し顧客の設計・開発支援

もともと、樹脂業界で二次元と三次元の両方の技術を持つ競合が少ない上に、試作や小ロット量産のスピードアップにつながる設備を導入したことで、他社との差別化が進んでいる。「軽さを追求するならこの樹脂、加飾するならこの樹脂」といった材料知識と、成型に関する技術があるためニッチトップの顧客との付き合いも多い。市村社長は「働き方改革によって、設計者も技術者も定時退社する時代。開発・設計をサポートする企業が必要」と語り、同市場を自社の存在感を発揮する場と位置づける。



新規導入した三次元切削機

物販中心のサイトを立ち上げ商流拡大

今後、物販中心のサイトを別途立ち上げ、自社や顧客の製品を販売する計画。自社で企画・設計した「漆喰消臭マルチスタンド」を大手のＷＥＢ販売サイトを通じ、来春市場投入予定。これらの商流と自社サイトでの商流の２本立てで販売強化を図る計画だ。「漆喰消臭マルチスタンド」は、除湿や消臭効果がある漆喰を樹脂にコーティングした素材で、折り曲げ方を変えればスリッパスタンドにもハンガーにも、シューズテーパーにもなるユニーク製品。素材と構造の技術を持つ同社ならではの商品に仕上げている。



スリッパにも使えるマルチぶり

目に見えない価値を付加して、お客様に提供



自転車に貼るシートラベルを祖業とし、昭和から平成にかけ、樹脂の二次元形状から三次元形状まで総合的に取り扱うメーカーへと成長することができました。新時代の令和は、これまでの物質的な価値提供に磨きをかけるとともに、目に見えない価値を付加して、お客様に提供する企業へと成長して参りたいと考えております。



代表取締役
市村 崇

- **社　名**　株式会社 可門プリントラボ
- **代表者**　代表取締役　市村 崇
- **住　所**　〒577-0065 東大阪市高井田中3−12−24
- **ＴＥＬ**　06−6789−6479
- **ＦＡＸ**　06−6789−8158
- **資本金**　100,000千円
- **従業員**　9名

- **主な取引先**　日用雑貨品・スポーツ用品・介護用品などのメーカー
- **主な保有設備**　プレス機、オンデマンド印刷機、三次元切削機、ラミネート機、ロールカット機など
- **主力製品**　プラスチック部材と用品に関わる企画および生産

企画力　小ロットOK　量産OK　試作OK　連携力

REPORTER'S EYE

現在、売上高に占める印刷の割合は３％。創業時の事業のみに固執せず、樹脂を切り口に時代のニーズに合わせて生き残ってきた会社だ。「なんでもできます」を掲げる企業の中には、一つ一つの加工分野が中途半端に終わる企業も少なくないが、可門プリントラボの設備と技術はそれぞれ深い。抜きやエンボスに使用するプレスの加圧能力などは高めて、オンデマンド印刷機や３次元切削機を新たに導入したことにより加工形状の対応幅を拡げた。「なんでもやる」の本気度を感じる。